

<令和7年度第2回三重県障がい当事者支援プロジェクト>

日時:令和7年11月25日(火) 10:00~11:30

場所:三重県庁厚生棟1階S103会議室 または オンライン

参加者:プロジェクトメンバー 4名 事務局 3名

○会議の内容

(1)自己紹介

(2)障がい当事者支援プロジェクトの目的やルールの確認

(3)司会決め

(4)事務局からの連絡、共有事項

①前回会議(令和7年5月)の内容の振り返り

・地域自立支援協議会アンケートを市町へ送付し、次回会議で報告する。

・「障がい者虐待防止・権利擁護研修」、「障がい福祉サービス事業所

職員基礎研修」へプロジェクトとして参加していく。

②プロジェクトメンバーについて

③報償費について

④地域自立支援協議会へのアンケート結果について

・プロジェクトメンバーに内容を確認後、市町へ9月に送付し、10月ま

でに^{かいとう}回答いただいた。

- ・^{かいとう}回答があったのは17^{しちょう}市町で、2^{しちょう}市町からは^{けんいき}圏域でまとめて^{かいとう}回答する
との^{れんらく}連絡があった。

- ・^{しゅうけいけっか}集計結果は^{しりょう}資料のとおり。

- ・^{ちいきじりつしえんきょうぎかい}地域自立支援協議会への^{しょう}障がい^{とうじしゃ}当事者の^{さんかじょうきょう}参加状況について

^{ほんかい}本会に^{さんか}参加している:8^{しちょう}市町

^{ぶかい}部会などに^{さんか}参加している:1^{しちょう}市町

どちらにも^{さんか}参加している:5^{しちょう}市町

^{さんか}参加していない:3^{しちょう}市町

- ・^{さんか}参加している^{しょう}障がい^{とうじしゃ}当事者の^{しょう}障がい^{しゅべつ}種別について

^{しんたい}身体:18人 ^{ちてき}知的:4人 ^{せいしん}精神:2人 ^{はったつ}発達:1人 ^{なんびょう}難病:1人

⑤^{けんしゅう}研修について

- ・^{ぜんかい}前回会議で^{いぎ}話し合ったことをふまえ、^{こんねんど}今年度の^{しょう}「障がい者虐待防止・

^{けんりようごけんしゅう}権利擁護研修」、「^{しょう}障がい^{ふくし}福祉サービス事業所^{じぎょうしよしよくいん}職員基礎研修」へメン

^{さんか}バーに参加いただいた。

- ・^{こんご}今後、「サービス^{かんりせきにんしゃじっせんけんしゅう}管理責任者実践研修」について、プロジェクトとして

^{かか}関わっていただけないか^{だしん}打診があった。^{かか}関わりは^{らいねんどいこう}来年度以降になる

が、^{けんとう}検討いただきたい。

(5) 思いの共有、プロジェクトで話し合いたいテーマについて

- ・地域自立支援協議会へのアンケート結果について確認。
- ・プロジェクトメンバーの中にも、現在、地域自立支援協議会や施策推進会議、県の自立支援協議会に参加しているメンバーがいる。
- ・過去に地域自立支援協議会やワーキンググループに参加していたが、何も変わらなくて辞めた。
- ・参加させてもらって、少し変わってきた部分もある。災害時対応についての検討や、当事者のニーズがどの程度あるのか探っていくため、まず受給者証の所持者数を把握してもらえることになった。
- ・何でも変えられるわけではないが、協議会の場で当事者の意見発信をして、知ってもらうことは大事だと思う。
- ・協議会にはいろんな方が参加しており、意見を出さない方もいる。当事者が参加して良かったと思える場になっているか。意見を言いやすい環境も必要では。
- ・参加のお声がけがあれば、また参加したい。
- ・話し合いの中で、当事者のいろんな思いがあっても、社会資源が少なく、実現が難しいこともある。社会資源を増やしていくことが課題。
- ・条例が成立しても、当事者団体等に相談された経緯がなかったり、当事者にとって本当に使いやすいものになっているか疑問もあると

き
聞いた。

ふくしけいかくさくせい む
・福祉計画作成に向けて、アンケートを 行 ったり、当事者や相談支援

せんもんいん う ま れんけい どうじしゃ なま こえ はんえい よ
専門員と上手く連携して、当事者の生の声が反映されると良い。

けんしゅう つた どうじしゃ こえ しょう しゅべつ かたよ
・研修で伝える当事者の声について、障 がい種別が 偏 ってしまうって

いるのが課題だと感じている。プロジェクトメンバーの障 がい種別も

ていど さまざま けんしゅう どうじしゃ かか
程度も様々である。研修にいろんな当事者が関わることができれば、

はばひろ いけん い よ けんしゅう おも
幅広い意見を入れられ、より良い研修になると思う。

どうじしゃ ちいき く けんしゅう さまざま かた
・当事者が地域で暮らしやすくしていけるよう、研修にも様々な方が

かか よ
関わると良い。

ちいき しょうがっこう ちゅうがっこう い こ む はなし
・地域の小学校や中学校へ行って、子どもたちに向けて 話 をしている。

けんりようご ことば むずか じか せつ し
権利擁護という言葉は 難 しいかもしれないが、直に接して知っても

らっている。地域へ出て行き、いろんな 障 がいのことを伝えていく

かつどう だいじ かんが
活動は大事だと 考 えている。

とくべつし えん がっこう せんせい せいと そつぎょうご しせつ い あ まえ おも
・特別支援学校の先生が、生徒は卒業後、施設に行くのが当たり前と思

っていることが多い。いろんな生き方があって、選択ができるという

ことを知ってもらいたい。先生の 考 え方は生徒に 影 響 する。特別

し えん がっこう しょうがっこう おな せんせい かか つ あ じ かん なが
支援学校は、小学校から同じ先生が関わり、付き合う時間が長いた

め、先生の 影 響 力は大きい。こういう生き方があるのだと、当事者

こえ は やくわり じゅうよう おも
の声が果たす役割は重要だと思う。

・アンケート結果によると、協議会に当事者が参加していない市町もあることがわかった。協議会に参加している当事者の障がい種別も偏っており、知的や精神、難病は少数である。家族が代わりに参加しているところも。当事者が行きたくても参加できないのかなど、議論する余地は多くある。市町へのフィードバックに繋がりたい。様々な当事者の意見を入れられることが望まれる。

・意見がどのように活かされたのか、フィードバックや、進捗状況の見える化、報告などで結果がわかれば、協議会に出て良かった、また参加したいと思えるのでは。

・協議会の話の内容がわからないと、行きづらいこともある。

・障がいの特性などで意見を言いづらい方もいると思うが、言いづらい人こそ意見を出してもらえると良い。話しづらい方も参加しやすい環境が必要。

・他の都道府県における、当事者支援プロジェクトのような枠組みについて。過去に、大阪府堺市の当事者部会へ見学したいという話があったが、現時点で実現していない。

・協議会の中にも、当事者の部会がありません。地域の中にも、様々な当事者が集まって話し合える場所があると良い。

(6)その他^た

- ・^{ちいき}地域^{じり}自立^{つしえん}支援^{きょうぎ}協議^{かい}会アンケートについて、^{みかい}未回答^{どう}の^{しちょう}市町^{かくにん}へ^{おこな}確認^を行^うう。